

増田敬太郎（ますだけいたろう）（1/2）

～巡査大明神～

明治28年（1895年）6月の末ごろ、入野村高串（現在の唐津市肥前町）に、突然にコレラが流行しました。病人が続出するので、村人は非常に驚き、仕事も手につかず、火の消えたようなありさまとなってしまいました。当時の高串村は200戸ぐらいでした。どうしてこの小さな港でコレラが流行したのかわかりませんが、高串は当時の特産品のイリコ製造に石炭を使用したので、石炭船の出入りなどで、侵入したのではないかと考えられます。

「コレラ」にかかると、猛烈な吐き気と下痢が続き、短時間で体力を消耗し、2、3日で死亡します。村人はこの病気を「トンコロリ」と言って、これにかかれば死神に取りつかれたも同然と恐れました。村内は大混乱になり、村当局は唐津警察署に巡査の派遣を要請しました。唐津署では、佐賀県の警察本部と相談し、増田敬太郎巡査が選ばれ赴任したのです。

敬太郎は熊本県菊池郡泗水町出身で、人の役に立ちたいという強い気持ちを持ち、普通の人であればおよそ3ヶ月かかる警察学校の教習をわずか10日間で習得するなど成績優秀、伝染病予防に必要な衛生面にも知識がありました。それで県警察の幹部は敬太郎に向かって「君の学識と経験ならびに気力などを総合すると、これ以上の適任者はいない。この危機を救ってくれないだろうか」と要請しました。敬太郎はこの言葉に感激し、赴任を決意しました。その後、すぐに唐津に向かい、1泊の後、翌21日には高串入りをしました。

そのころは、コレラの猛威は頂点にあり、真正患者40名、擬似患者34名、死亡者は9名に達していました。敬太郎はコレラの感染を防ぐには、すぐにも患者と健康な人との接触を絶つことが必要であると考えました。患者の家に縄を張りめぐらし、人々の行き来を禁止しました。また、吐いた物や便所は厳重に消毒させ、生水を使用することも禁止しました。敬太郎が最も苦労したのは遺体を運ぶことでした。村の人々は感染するのが怖くてしりごみをしました。敬太郎は、自分一人で遺体を海岸に運び、対岸まで船に乗せていき、斜面を2百メートルも登って丘の上の墓地に運びました。その肉体的疲労は全く言葉で表せないほどのものでした。

～2/2へつづく～

分野 人物

地域 肥前

◎地図・写真・統計資料など



増田 敬太郎
(1869～1895)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

増田敬太郎（ますだけいたろう）（2/2）

～巡査大明神～

～1/2からつづく～

また敬太郎は村内に伝染病の予防や治療のことを教えてまわりました。しかし、すでに手遅れの患者が薬を飲んで亡くなったのをきっかけに、薬を飲んだら死ぬといううわさが広まり、薬を飲めば治る患者でも薬は飲まないといいだしました。敬太郎は、誤解を解くために根気強く話して回り、その家族以上に看病もしました。その神様のような行動は次第に実直な村人の心に浸み込んでいきました。

敬太郎は三昼夜にわたって働き続けました。病人を看護する間に外に出て、のどがかわいたからと言って水がめの水を飲んだので、そばにいた人が「そんな生水を飲まれては、巡査殿もコレラにかかりますよ。」と冗談半分に言うと、「僕がもしこれでコレラになって死んだら、高串全部の病気を背負って行きますよ。」と笑って答えたと伝えられています。

そして敬太郎が着任して3日目の23日の午後3時ごろ、急に気分が悪くなり休憩しましたが、24日午前3時に真正コレラと判明しました。午後1時ごろに来た村役員に「高串のコレラは私が背負って行きますから、ご安心下さい。また、将来も伝染病がこの村に流行しないよう、私が守ります。」と言い残し24日の午後3時、敬太郎は永眠しました。発病後24時間、高串の在任は4日間でした。そして火葬場と定められた小松島に遺体を運び、25日の午後5時に火葬されました。

その遺骨の一部を村人たちは、村の中央にある秋葉神社の境内に埋めました。その後、10年を経た明治38年に社殿を増築し、増田神社となりました。増田神社は日本で唯一警察官をまつた神社です。毎年7月下旬には、敬太郎の遺徳をしのび、盛大な祭礼が行われています。

分野 人物

地域 肥前

◎地図・写真・統計資料など



昭和11年ごろの増田神社



白馬に乗る増田巡査

（『郷土につくした人々』より）

◎引用・参考文献（出典）

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html